

第56回建築士会全国大会しまね大会紹介

7) 島根のまちなみ 石見部 2 温泉津温泉

ゆのつと読みます。その名の通り、温泉と港を持った古い町です。位置的には大森銀山に近いため、銀を馬に背負わせ山を越え、この港に出て遠くへ積み出すというのが「銀の道」の一つです。温泉としても古く、1400年前にはすでに発見されていたとか。東西に長い島根県のほぼ中央部の海岸辺に当たります。大森銀山と共に世界遺

産の一角を担い、さらに重伝建地区に指定されています。まちなみには近世の建築が多く、鄙びた良い味を出しています。この町は温泉を楽しみつつ、町歩きも楽しめ

ます。内藤家は近世の建築で、庄屋を務めていました。板壁に白い漆喰壁のまぶし

安楽寺の鏝絵

い大きな屋敷といくつもの土蔵が並んでいます。温泉津の通り自体は1kmもない短いものですがその間にいくつもの寺や社があります。そのうちの一つ安楽寺の妻にある龍を描いた鏝絵は、島根でも屈指のものです。温泉旅館はいくつも並んでいますが、3階建てのものもあります。共同浴場は現在3つだけです。元湯はまちなみの最も奥にありますが、熱い湯で茶色に染まった湯船の周りには、温泉にきた感じを堪能できます。薬師湯は近代建築風の円形に壁が持ちだされるユニークなものです。2,3階は休憩室になっていますし、長めの良い屋上も解放されています。震湯(明治40年頃)ギャラリーは元々温泉施設で2,3階は休憩施設でした。明治5年に島根県西部



温泉津のまちなみ



3階建ての長命館



内藤家



安楽寺の鏝絵



元湯 入湯料 300 円



薬師湯

を襲った浜田地震によって、湯量が増えて、新築したということです。今はギャラリーやカフェとして再生されています。ここに立ち寄れば、温泉津の歴史を知ることができます。もう一つ小浜温泉はまちなみから少し離れていますが、昭和レトロの感じを残す、楽しい温泉です。薬師湯、小浜の温泉は湯温も丁度良く、入りやすい泉質です。小浜温泉の近くに鑊絵の安楽寺があります。地元の酒開春もファンの多い良い酒です。小浜温泉近くに古い顔を持った店がありますので覗いてみることもできます。さらに、温泉街から車で5分ほど行けば、トンネルをくぐり、古くからある小さな漁港のまちなみに出ます。沖泊と言って、北前船の風待ち港ともなった、恐ろしくノスタルジックな雰囲気を持った集落があります。また、大きな登り窯もあって石見焼と呼ば



震湯ギャラリー(旧藤の湯)



小浜温泉脱衣場

れる焼き物を焼いています。特に大きなカメを焼くこと



沖泊の神社



開春 若林酒造

で知られていますが、こちらではその大きなカメをハンドと呼んで、家の常備品でした。年に何回かの窯出しには多くの人でにぎわいます。



温泉津の登り窯